

## 経営協議会 委員からの意見の反映状況（令和3年）

### 【新渡戸カレッジについて】（R3.3.11 令和2年度第7回）

新渡戸カレッジのリーダーシップ育成プログラムは世界に誇れるものであるため、学位記等にプログラム修了の旨を付記する等、社会に認知される取組を検討願いたい。

### 【本学の状況】

新渡戸カレッジ修了者に対して、修了証書を授与しているほか、現在、日・英の2言語により新渡戸カレッジの概要、理念、修了要件、称号、知識・スキルなどが掲載されたオープンバッジ（獲得した知識やスキルを証明する、国際技術標準規格のデジタル証明書）の付与の準備を進めています。

#### オープンバッジのイメージ



### 【SDGsについて】（R3.6.11 令和3年度第2回）

総長室が中心となり、教育プログラムの確立等、できるところから積極的に進めていくとよい。  
また、SDGsの17の目標を分類し、北海道大学で行われている研究をプロットすることで、北海道大学の研究がSDGsのどこに集中しているか明確になり、対外的なアピールへとつながる。

### 【本学の状況】

令和5年度末までに、学部学生と大学院学生それぞれを対象にしたSDGs関連授業を開発し、令和6年度から実施することを目標としているほか、令和4年度Hokkaidoサマー・インスティテュート（世界の第一線で活躍する研究者を本学に招へいし、本学教員とともに最先端の授業を英語で行うサマースクール）において、SDGsの基礎を学ぶ学部学生向けの英語による専門横断科目の開講準備を進めています。

また、既に北海道大学研究シーズ集ウェブサイト (<https://seeds.mcip.hokudai.ac.jp/>) において、SDGsの目標別に研究テーマを一覧表示しているほか、現在、本学で行われている研究とSDGsの目標を関連付けた教育研究活動データベースの構築準備を進めています。

**【国際化について】**（R3.9.21 令和3年度第4回）

国際戦略策定にあたっては、技術流出防止の観点や、外国人留学生の日本定着促進の観点を盛り込むとよい。

また、世界的にみると海外拠点の空白地域が多いため、校友会エルム等に呼びかけ、現地居住者にリエゾンオフィスのような働きをしてもらう等、拠点をもう少し増やす必要がある。

**【本学の状況】**

本年12月に「2040年に向けた北海道大学の国際戦略」を策定し、以下の点を明記しました。今後、全学的な取組として推進していく予定です。

- ・ 技術流出防止等の安全保障貿易管理の徹底に取り組むこと
- ・ インターンシップや日本の企業文化の学習機会創出、面接指導等就職支援体制の整備、あるいは自治体や地域の産業界との連携強化により外国人留学生のキャリア支援を行うこと
- ・ 海外オフィスを戦略的に活用するため、校友会エルム等の海外の同窓生ネットワークの活用など、効率的に推進する体制を構築すること

**【国際化について】**（R3.9.21 令和3年度第4回）

海外の優秀な研究者を数週間招へいして講座を担当してもらい単位化することや、企業が海外から優秀な人材を招へいする際に大学にも講演に来てもらうよう働きかけること、英語版の統合報告書（組織の財務情報と非財務情報をまとめたもの）を作成して大学のPRを行うこと等、具体的な施策を考え、色々な形できっかけを作らないと、国際化は前に進みにくい。

**【本学の状況】**

英語版の統合報告書（『財務報告書2021』の英語版ダイジェスト）発行に向け、現在作業を進めています。その他の取組についても、委員からの意見を参考とさせていただきながら、上記国際戦略に沿って具体的な作業を進めていくこととしています。

**【学生支援活動について】**（R3.3.11 令和2年度第7回）

北海道大学と校友会エルム（在学生、在学生の保護者、教員、職員および卒業生など、全ての北海道大学関係者で構成する組織）は異なる組織ではあるが、学生を支援するという点について、一体となり運営できる仕組みを検討願いたい。

**【本学の状況】**

これまでの実績として、新型コロナウイルス感染症の影響により生活に困窮する学生に対して、本学が実施する食料支援に併せて、校友会エルムから卒業生の在職する企業に食料品提供を依頼し、本学と校友会エルムが一体となった学生支援活動を行った事例があります。また、本年4月に、新たに総長が指名する理事を委員長とする「北海道大学校友会・同窓会連携委員会」を設置し、校友会と連携して、学生支援の方策を立案・実施することとしています。